

武尊通信

ほたかつうしん
第182号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033
群馬県伊勢崎市
南千木町 5226-12
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2025.6.1 発行

沖縄戦で壊滅した「高崎中隊」

前澤 哲也

日中戦争が本格化すると、高崎城址に常駐していた第十五連隊だけでなく第百十五連隊・第八十五連隊・第二百十五連隊・第二百三十八連隊などが次々に編制され大陸に派遣された。太平洋戦争が始まると、第十五連隊はパラオ島（一部はペリリュー島）、第百十五連隊と第二百三十八連隊はニューギニア島に送られ、第二百十五連隊はインパール作戦に投入された。その後、高崎には留守部隊として東部第三十八部隊（宇都宮師管区歩兵第三補充隊）が置かれ、大小様々な部隊が編制された。

戦争末期の根こそぎ動員では、体格の劣る補充兵や昭和十八年（一九四三）に四十五歳まで延長された第一国民兵役の高齢の召集兵、知的障害者までもが召集された。

東部第三十八部隊で最後に戦場に派遣され

たのは、昭和十九年（一九四四）七月に編制、沖縄防衛の第三十二軍配下となった「陸上勤務第七十二中隊」と、ルソン島に送られ「尚武集団」に所属した「独立歩兵第五百四十六大隊」（第三中隊及び銃砲隊の一部）である。

沖縄派遣部隊は家族との最後の面会が許可されたが、子供を抱いたり、手をつないだりしていた兵士が多かったという。同部隊が高崎を出発した七月二十三日に、ルソン派遣部隊が召集されるという慌ただしさであった。

沖縄戦に関する史料は東京都千代田区にある永田町合同庁舎二階の「沖縄戦関係史料閲覧室」に揃っている、そこで検索した資料を基に陸上勤務第七十二中隊の履歴を追ってみたい。

同中隊の通称号は「球四八三三部隊」、中隊長は剣持作治中尉。昭和十九年七月二十日に召集された将兵は高崎市立中央小学校（国民学校？）で数日寝泊まりし、家族との面会後に東部第三十八部隊の兵舎で完全武装し、行く先も告げられないまま二十三日の夜中に

《講演会および総会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催します。

日時 二〇二五年六月二十九日（日）

午後二時～五時

会場 前橋市中央公民館五〇六学習室

（前橋プラザ元気21 五階）

講演 川名 禎氏（國學院大學准教授）

「地域と文化景観―自治体史との関わりにおいて―」

講演 講演会終了後、同じ会場で行います。（オンラインによる総会への参加はできませんので、ご了承ください。）

申込 対面・オンラインいずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記URL、二次元コード、本会HP）に接続し

申し込み、TEL またはFAXでご連絡ください。



URL : <https://forms.gle/1KrTCB4d3sGMC1c8>
TEL/FAX : 0270 (32) 9070

高崎駅から乗車、三十一日門司を出港し、八月十日に那覇港に上陸した。

高齢の将兵が多かったため本来は後方勤務担当であった同中隊は、十月一日に第三十二軍直轄の軍補給部配下となり、第一小隊は兵器敵、第二・三小隊は貨物敵配属となった。